

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 82人

② 算数 82人

5 留意事項

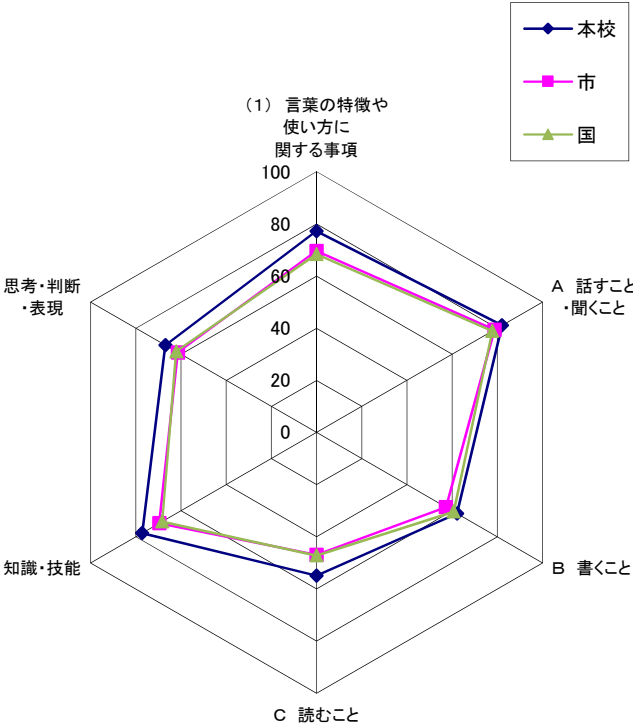
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本西小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.2	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	82.1	78.7	77.8
	B 書くこと	62.2	57.3	60.7
	C 読むこと	54.9	46.9	47.2
観点	知識・技能	77.2	69.6	68.3
	思考・判断・表現	66.9	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は77.2%であり、国の平均より8.9ポイント上回っている。 ○言語の特徴や使い方にに関する事項においては、全ての問題において正答率が国の平均より上回った。特に、文の中における修飾と被修飾との関係を問う問題においては、正答率が59.8%で、国の平均より16.2ポイント上回った。また、漢字を文の中で正しく使うことを問う問題では、全ての問題で国の平均を上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ほとんどが国の平均を上回っているが、漢字については正答率が国の平均と同程度のものであったので、練習することにより、定着を図る。また、漢字を熟語で書くことができるが訓読みでは正答率が低くなる問題があったので、日頃から漢字を使用して書く機会を多くする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は82.1%であり、国の平均より4.3ポイント上回っている。 ○話すこと・聞くことにおいて全ての問題において正答率が国の平均より上回った。特に、目的や意図に応じて資料を使って話す内容を考える問題においては、正答率が91.5%で、国の平均より10.5ポイント上回った。 ●スピーチの際に用いた資料の目的を問う問題においては、正答率が75.6%で、国の平均を0.7ポイント上回ったが、国の平均と同程度だった。	・国の平均を上回っている。日頃より友達の考えをよく聞いて、自分の考えを伝える活動を継続することで成果が出ていと考えられる。目的に応じた資料を選ぶことに課題が見られるので、様々な教科・領域においても、資料を読み取ったり関連付けたりする機会を設け、指導する。また、情報と情報との関連付けの仕方を理解できるよう情報の整理の知識・技能の育成と合わせて指導していく。
B 書くこと	平均正答率は62.2%であり、国の平均より1.5ポイント上回った。 ○目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題においては、正答率が59.8%で、国の平均より3.2ポイント上回った。 ●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題においては、正答率が64.6%で、国の平均より0.2ポイント下回った。	・文章全体の構成や展開を考えることに課題が見られるので、「序論ー本論ー結論」という構成を確認して、文章メモを作成してから文章を書くことを継続して行うようにする。また、考えと理由や事例、原因と結果などの配列を意識して、読み手に分かりやすく伝わるように書く機会を設け指導する。

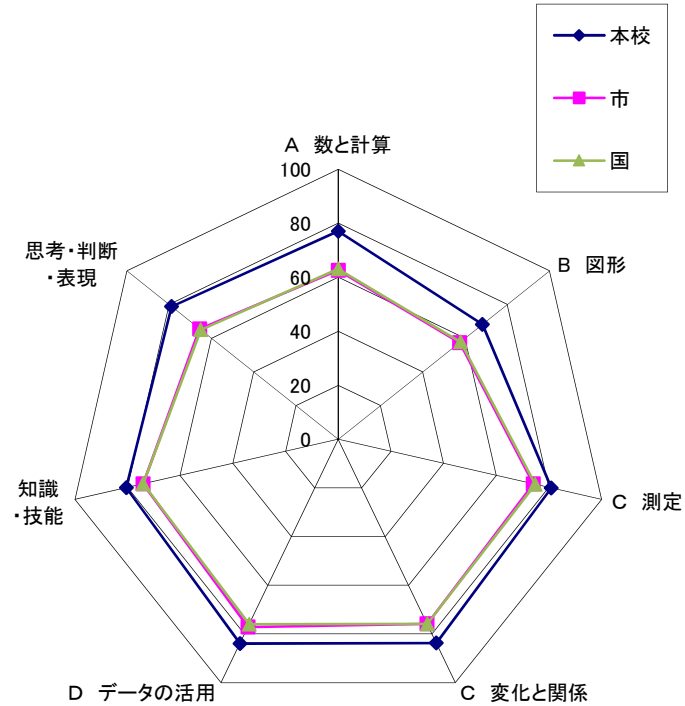
C　読むこと	平均正答率は54.9%であり、国の平均より7.7ポイント上回っている。 ○読むことにおいて全ての問題において正答率が国の平均より上回った。特に、文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題においては、正答率が92.7%で、国の平均より15.1ポイント上回った。 ●目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題では、国の平均を3.2ポイント上回ったが、正答率は32.9%であった。	・全ての項目で国の平均を上回った。今後も文章全体の構成をとらえて、内容の中心となる事柄を読み取る活動を継続する。また、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題が見られるので、文章の大切な言葉に線を引いたり、繰り返し出てくる言葉からキーワードを見つけたりするなどの活動をして要約する機会を設け、指導する。
--------	---	--

宇都宮市立岡本西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	77.1	62.6	63.1
	B 図形	68.3	57.5	57.9
	C 測定	80.9	74.1	74.8
	C 変化と関係	83.7	75.8	75.9
	D データの活用	83.9	77.1	76.0
観点	知識・技能	80.5	74.1	74.1
	思考・判断・表現	78.9	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	領域の平均正答率は77.1%と国の平均を14.0ポイント上回った。 ○二つのコースの道のりの差を求める問題や、基準量を1として見たときの比較量がどれだけの割合にあたるかを求める問題では、いずれも正答率が国の平均を14ポイント上回った。 ●商が1より小さくなる等分除の場面から数量の関係を捉えて除法の式に表す問題では、国の平均を11.6ポイント上回ったが、領域の中では最も低い正答率となった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な計算が身に付いている。積極的に発展問題に挑戦できるような機会をつくり、活用できるようにする。また、算数への興味、関心を高められるような指導を今後も継続する。 ・問題文から場面を把握してわり算の式を立てて計算する問題に課題が見られたので、場面を図に表してから立式することや式の意味を図と結び付けて考える活動を取り入れる。各学年において、授業中、友達の考えた式を読み取ったり、図や数直線を用いて考えたりすることにより、計算の技能とともに思考力・判断力・表現力を育てていく。
B 図形	領域の平均正答率は68.3%と国の平均を10.4ポイント上回った。 ○二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積を求める問題では、正答率が69.5%と国の平均を23.5ポイント上回った。 ●直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選択肢から選ぶ問題では、正答率が73.2%と国の平均を0.7ポイント上回ったが、全国平均正答率とほぼ同じ結果となった。	・三角形の底辺と高さを正しく捉え、公式を使った三角形や平行四辺形の面積の求め方を記述することができた。日頃より、知識を生かして考えたことを言葉で表現する活動を継続してきたことの成果と考えられる。 ・直角三角形を組み合わせた面積の比べ方についても問題に課題が見られた。等積変形といった図形の操作活動を取り入れ、三角形の底辺と高さをどこに取っても面積は同じであることを実感を伴って理解できるようにする。

C 測定	領域の平均正答率は80.9%と国の平均を6.1ポイント上回った。 ○二つのコースの道のりの差を求める問題では、正答率が76.8%と国の平均を14.3ポイント上回った。 ●条件に合う時刻を求める問題では、正答率が92.7%と高水準であり、国の平均を3.5ポイント上回ったが、全国の平均正答率とほぼ同じ結果となった。	・決められたものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べる問題に課題が見られるので、色板などの具体物を操作しながら量の表し方を考えるとともに、様々な量の大きさを比べるなどの児童の日常生活や学校生活の場面と算数の学習をつなげられるような指導を工夫していく。 ・時刻を求める問題に課題が見られた。実際に時計の模型の針を動かして目盛りの数を数えたり、数直線上に表された時刻を読んだりすることを指導していく。
C 変化と関係	領域の平均正答率は83.7%と国の平均を7.8ポイント上回った。 ○一定の速さを基に道のりと時間の関係について考察する問題や、速さと道のりを基に時間を求める問題では、いずれの正答率も9割を超えており、国の平均を6ポイント以上上回った。 ●二つの速さを求める式の意味について正しい選択肢を選ぶ問題では、国の平均を10.1ポイント上回ったものの正答率が65.9%であった。	・既習事項をもとに、日常生活の場面で考える問題に課題が見られたので、日常生活の中にある多くの情報から問題を見つけ出す機会を作り、自ら問題を発見し、既習事項を使って解決する場面を意図的に設定する。 ・速さなど単位量当たりの大きさの意味のや表し方について理解することに課題が見られた。数直線で時間と距離の2つの量を表し、1時間当たりの距離が速さであることを正しく理解することができるよう指導していく。
D データの活用	領域の平均正答率は83.9%と国の平均を7.9ポイント上回った。 ○棒グラフから項目間の関係を読み取る問題では、正答率が98.8と国の平均を8.1ポイント以上上回り、ほぼすべての児童が正答していた。 ●帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題では、国の平均を15.1ポイントと上回ったものの正答率が67.1%であった。	・データの活用では、複数のグラフをを比較して特徴をつかみ、適切なグラフのデータを選び取ることに課題が見られた。グラフからデータを読み取って分析する活動を充実させていくようにする。 ・データを分析する際には、グラフを作り直して分析することとデータを集め直すことと相互に関連させながら進め、様々なデータの見方ができるようにしていく。「問題-計画-データ-分析-結論」というPPDACサイクルを回してデータから分析したことをまとめ、さらなる問題を見出して分析するという活動を取り入れてデータの活用をすることができるようしていく。

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に対する肯定的回答率は87.8%で、全国平均より6.6ポイント上回っている。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対する肯定的回答率は96.3%で、全国平均より5.8ポイント上回っている。家庭での規則正しい生活が、学力面においても生活面においても安定してよい状態を保っている要因と考えられる。

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対する肯定的回答率は93.9%で、全国平均より16.9ポイント上回っている。また、「将来の夢や目標をもっていますか」の質問に対する肯定的回答率は89.0%で、全国平均より8.7ポイント上回っている。今後も、キャリアパスポートの活用等を図りながら、自己肯定感をもって前向きに目標に向かって生活していけるよう支援をしていきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対する肯定的回答率は96.3%で、全国平均より12.9ポイント上回っている。また、「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」の質問に対する肯定的回答率は85.4%で、全国平均より15.1ポイント上回っている。今後も励まし合い、助け合える学年学級経営を意識し、友達や教師とのコミュニケーションを上手に図りながら、全員が前向きに学校生活を送ることができるよう支援していきたい。

●「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」の質問に対する肯定的回答率は25.7%で、全国平均より14.4ポイント下回っている。今後はコンピュータなどのICTを積極的に活用していける環境と機会を設けていく。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対する肯定的回答率は47.5%で、全国平均を10.6ポイント下回っている。一方で、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の質問に対する肯定的回答率は73.2%で、全国平均を20.8ポイント上回っている。このことから、感染症拡大予防等で行事に参加することはできないものの、地域のことを大切に思い、社会の出来事を自分の事としてよく考えて生活することができていることが分かる。感染症の状態が落ち着いたら、進んで地域や社会にかかわっていけるよう、今できる支援を行っていく。

宇都宮市立岡本西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあてと振り返りの充実	全ての学年で、児童が考えためあてを提示し、授業の終末でまとめを板書している。「今日の授業を振り返ろう」を参考に振り返りをノートに書く活動を実施している。	振り返りについては、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるかを問う項目では、肯定的回答率が89%と国の平均を10.7ポイント、県の平均を8.9ポイント上回った。授業の終末で振り返りを行い、分かったことやできたこと、次にできるようにしたいことを書く活動を行うことで意識が高まっていると考えられる。

豊かに表現する児童の育成	児童同士の関わり合いを大切にした対話のある活動の設定の工夫に取り組んでいる。児童が思考し、自分の考えを書いたり説明したりする力を育てるための指導を行っている。	5年生までに受けた授業において、「学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」の項目で肯定的回答率が93.9%となり、県の平均を13.9ポイント、国の平均を11.3ポイント上回った。「自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表できたか」の項目で肯定的回答率が79.2%となり、県の平均を15.2ポイント、国の平均を15.7ポイント上回った。「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか」の項目では、肯定的回答率が76.8%と県の平均を3.8ポイント、国の平均を9.6ポイント上回った。 授業で、児童の考えを表現する場を設定し、児童が友達の考えを受け止めて話し合いで考えを伝えたり、自分の考えを書いたり説明したりして発表する活動に積極的に取り組むことができていると考えられる。
家庭学習の定着	地域学校園で共通の家庭学習の時間の目安と家庭学習の手引きを作成し、自主学習ノートと記録カードを用いて家庭学習の取組を進めている。定着月間・強調月間には家庭と連携し生活習慣の振り返りを行っている。	「家で自分で計画を立てて勉強していますか(学校の授業の予習や復習を含む)」の項目で肯定的回答率が84.1%となり、県の平均を5.8ポイント、国の平均を10.1ポイント上回った。自主学習の手引きを活用し、宿題や家庭学習に取り組む習慣が身についていると考えられる。一方、「学校の授業時間以外に普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の項目では、「1時間以上」の児童が58.6%となった。国や県の平均を下回っており、地域学校園で家庭学習の目安を確認し、今後の学習習慣の定着につなげていくようにする。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
結果から、正答率がいずれの教科でも県や国の平均を上回った。設問ごとに見ていくと、国語の読むことにおいて、目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題や目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題で課題が見られた。また、書くことにおいて目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題は県の平均と同程度である。	論理的思考力の育成	国語では、読むことにおいて主張の理由や根拠をあげながら話したり書いたりする活動や文章と図表を結び付けて必要な情報を見付ける活動を行っていく。算数では筋道を立てて説明する活動を引き続き行っていく。 学習形態の工夫だけでなく、発問や問いを工夫することにより思考が深まる学習活動を展開するとともに、各教科の「見方・考え方」を働かせた授業を展開していく。 「思考の言語化」は地域学校園での共通課題である。各教科部会の重点項目を確認し、普段の授業で指導していく。